

令和5年度
愛媛県議会海外派遣（米国）
実施報告書

令和6年2月8日（木）～12日（月）
アメリカ合衆国 ハワイ州

目 次

1. はじめに	1
2. 派遣目的	2
3. 派遣期間	2
4. 議員団の構成	3
5. 派遣結果報告	4
6. 終わりに	15

1. はじめに

今般議決をいただき、去る2月8日から12日の5日間、総勢9名の視察団で海外派遣が実施された。

2001年2月9日午後1時43分（現地時間）ハワイ・オアフ島沖で、愛媛県立宇和島水産高校の水産実習船「えひめ丸」が米国原子力潜水艦グリーンビルの衝突により沈没し、生徒4名、指導教官2名、船員3名の尊い命が失われた。現在も愛媛県民にとって、忘れられない悲しい事故である。

えひめ丸事故は、両地域の人々を特別な友情の絆で結びつけることとなり、愛媛県民とハワイ州民の友好、親善の強化と海の安全を願い、2003年11月21日に姉妹提携が締結され、両地域の人々が、特別な友情のもと、相互交流や相互理解、友好親善を発展させ、日米関係の持続的な発展に寄与してきた。

そしてこの度、姉妹提携の締結20周年を迎えるに当たり、愛媛県とハワイ州は長期的な友好、平等、互恵のもとに、両県州の繁栄を促進するため、様々な形の交流と協力を続け、世界平和と持続的発展への願いを込めて、愛媛県とハワイ州の姉妹提携が三度締結されることとなった。

これを受けて、愛媛県議会としても理事者と一体となってハワイ州とのさらなる友好交流の深化に貢献するため、愛媛県ハワイ州姉妹提携20周年記念式典や、ハワイ州知事等、現地行政機関関係者への表敬訪問、えひめ丸事故慰霊式に参加するため、研修視察を実施することとした。

それぞれの視察先のレポートは、準備段階から、メンバーに分担いただいておりますので、各メンバーの報告書を一読賜りたいと存じます。

愛媛県議会海外派遣（ハワイ州）議員団長 渡部 浩

2. 派遣目的

現地で開催される「愛媛県ハワイ州姉妹提携 20 周年記念式典」に参加するほか、えひめ丸事故慰霊式に出席し、犠牲となられた 9 名の方々のご冥福と海の安全を祈念するとともに、関係行政機関への表敬訪問、現地在住の県人との交流等を実施し、両国の友好関係を促進する。

3. 派遣期間

令和 6 年 2 月 8 日（木）～令和 6 年 2 月 12 日（月）までの 5 日間

【日 程】

	月日	地名	時刻	スケジュール
1	2/8 (木)	松山空港	17:20	松山空港 発
		羽田空港	18:45	羽田空港 着
1	2/8 (木)	ホノルル	21:55	羽田空港 発
				(日付変更線通過)
			9:45	ホノルル国際空港 着
			11:30	ハワイ州議会
			13:30	在ホノルル日本国総領事館
				ホノルル泊
2	2/9 (金)	ホノルル	10:00	ハワイ州知事表敬訪問
			13:30	えひめ丸事故慰霊式
			17:30	愛媛県ハワイ州姉妹提携 20 周年式典
				(ホノルル泊)
3	2/10 (土)	ホノルル	13:00	ホノルル日本人商工会議所視察
			14:00	ハワイ・フードバンク視察
				(ホノルル泊)
4	2/11 (日)	ホノルル	11:00	ホノルル空港 発
				(機内泊)
5	2/12 (月)	羽田空港	17:40	羽田空港 着
			19:35	羽田空港 発
		松山空港	21:10	松山空港 着

4. 議員団の構成

次のとおり、渡部浩議員を団長に全9名の議員団を編成した。

【議員団名簿】

	氏名	期数	会派	備考
1	渡部 浩	7	自由民主党	団 長
2	明比 昭治	7	自由民主党	副団長
3	石川 稔	5	リベラル愛媛	
4	高橋 英行	3	自由民主党	
5	大石 豪	3	自由民主党	
6	大政 博文	2	自由民主党	
7	山崎 洋靖	2	自由民主党	
8	石川 剛	1	自由民主党	
9	永易 英寿	1	自由民主党	

5. 派遣結果報告

(1) ハワイ州議会訪問

[2/8 (木)]

【文責：大政 博文】

ハワイへの入国手続終了後、ハワイ州議会を訪問した。ハワイ州議会議事堂は、ハワイの最後の王が宮廷として使用していたことで有名なイオラニ宮殿の向かいにあり、セキュリティチェックがあるものの気軽に傍聴できる雰囲気であった。

訪問時にはちょうど下院が開かれており、議題に対し議員同士が自由に発言する様子は、日本の議会と大きく違うと感じた。議事の途中、日本国愛媛県からの議員が視察に来ていることを紹介して頂き、その配慮に一同感謝した。



(2) 在ホノルル日本国総領事館表敬訪問

[2/8 (木)]

【文責：山崎 洋靖】

ハワイ州議会傍聴に続いて、高山議長と戒能議員、山本議員同行のもと在ホノルル日本国総領事館を訪ね、兒玉良則総領事の表敬訪問を行った。

総領事は、昨年の令和5年10月に着任され、以前は東南アジア諸国連合の日本政府代表部の行使を務められておられた。2001年のえひめ丸事故当時は外務省で事故の対応にあたられており、事故の悲惨さと共に風化してはいけないと感じておられ、日頃よりご配慮をいただいている。

また、着任前に発生したマウイ島での火災の対応にもあたられており、日本と関係が深く、日本人の心の中で大きな位置を占めるハワイという地で勤務できることを嬉しく思っておられた。

昨年10月には、コロナ禍で中断されていた愛媛とハワイ間の少年野球交流再開へ向けた覚書への調印式をこの総領事館で行い、着任されたばかりの兒玉総領事が対応にあられた。

総領事と訪問団との懇談において、多くの意見が交わされた。

総領事からは、コロナ禍前の日本からハワイへの観光客は150万人であったが、円安や燃料高などの複合要素により半分にも届かず、今後増やしていかなければな

らない。また、マウイ島の火災では仮の住まいとして島内の別荘を賃貸しており、日本の災害時の参考にならないか。マウイ島火災により伝統的な家屋が焼失している事に関して、日本建築の大工等と連携・協力が出来ないか。ハワイ州の輸入先は韓国が一番多く、日系のデパートやホテルが減少したため州内の日本商品が減少しているなど、多くの課題やご提案をいただいた。

訪問団からは、入国の際の手続きに時間を要している事に触れ、総領事は、コロナ禍に人員を減らした事による人員不足が原因であり、対策を進めたいと答えた。また、愛媛の柑橘の輸入について検疫や加工品の販売促進などを求めた。さらに、愛媛とハワイで祭りの交流はできないかとの提案もあった。そして、帰国後は愛媛の人々にハワイ州を訪れるよう活動していきたいと意気込みを語った。

短い時間での訪問であったが、愛媛とハワイ州の今後ますますの交流発展を誓い合った有意義な懇談が持たれた。



(3) ハワイ州知事表敬訪問

[2/9 (金)]

【文責：大石 豪】

グリーンハワイ州知事への表敬訪問を行うため、中村知事をはじめとする県関係者と高山議長に県議団が同行しハワイ州政府庁舎へ向かった。

州上院・州下院の議場もこの建物の中にあり、向かう州知事の執務室は5階にある。

左右の壁に歴代州知事の大きな肖像画が並ぶプレスルーム調の貴賓室に通され、和やかな雰囲気の中にも一瞬の緊張感を持ちつつ表敬訪問は行われた。

はじめに出席者が紹介され、グリーン州知事の挨拶となったのだが、その最中に僅かな揺れが会場を包む事となる。

一瞬緊張感が増したが、直様、グリーン州知事に連絡が入りその報告を受けた後は、何事もなかったのか無事進行される事となった。

余談だが後から調べてみると、津波やインフラへの被害の報告はないものの、ハワイ島沖でマグニチュード5.7の地震が観測されたとの事であった。震源に近いハワイ島以外の島でも揺れが感じられており、何事もなく本当に安堵するばかりであ

る。

グリーン州知事からは、えひめ丸の悲しい事故を乗り越え、戒能議員が主体となり取り組んでいる親善少年野球トーナメント等を通じて愛媛県と 20 年間深い関係が続けてきた事やスポーツやビジネス、文化的交流を踏まえて関係がより長く続く事を祈念している旨が述べられ、後の挨拶で中村知事もそれを受け、遺族の皆様からも前向きな関係が続けて欲しいと望まれている事やスポーツ等を通じた様々な交流は勿論、更なる関係として女性のビジネスリーダーの交流としても続けられればと話された。

こうして両知事が向かい合う事で愛媛県とハワイ州との更なる関係、新たな関係が生まれるものと十分に期待が持てるものであった。

その後、中村知事よりマウイ島火山見舞金¥5,950,800(日本円)等の目録が贈呈され、20 年を経ての姉妹提携宣言へ両知事が署名され再締結がなされた。

記念品交換では、愛媛県からは「桜井漆器屏風桜」が贈られ、ハワイ州からは州魚である「フムフム・ヌクヌク・ア・プアアの魚拓」が手渡された。

両知事からは軽いジョークも交えられ、非常に微笑ましい関係が伺えたが、それはそのまま愛媛県とハワイ州の良好な関係へと投影されたかの様であり、参加者それぞれが今後におけるビジネスを含めたパートナーとしての関係へと期待が持てる爽やかな愛顔であったのが印象に残っている。



(4) えひめ丸事故慰霊式

[2/9 (金)]

【文責：高橋 英行】

県議会ハワイ派遣 3 日目午後、ホノルル市ワイキキの北西に位置する、「カカアコ・ウォーター・フロント公園」を訪問した。今から 23 年前の平成 13 年 2 月 10 日 8 時 43 分 (日本時間)、愛媛県立宇和島水産高等学校に所属する漁業練習船「えひめ丸 (船長 58.18m・総トン数 499 t)」は、ハワイ州オアフ島沖南約 18km 付近にて民間人が乗船して体験航海中の米国海軍ロサンゼルス級攻撃型原子力潜水艦「グリーンビル (全長 110.3m・総トン数 6,080t)」が急浮上中、同艦の船尾部分により

衝突され5分程度で沈没。乗組員35名のうち船に取り残された生徒4名、指導教官2名、乗組員3名の計9名が死亡（重軽傷12名）する悲惨な大事故が発生した。その翌年の平成14年2月9日、公園内で最も眺めが良く、遠い日本へと続く太平洋を一望出来る丘の上に、犠牲者の魂を鎮め、海の平和と安全を祈る「えひめ丸慰霊碑」が、宇和島水産高校と併せて愛媛県により建立され、維持管理と慈善及び教育の目的を推進する諸活動に携わることを使命とする法人「えひめ丸慰霊碑管理協会」の年間を通じた慰霊碑の点検や、ホノルル山口県人会を始め21団体のボランティアによる清掃活動、県による管理運営費補助（令和4年度2,066千円）等により常に良好な状態に維持管理されている。

当時の加戸知事が参列した事故後1周忌となる「えひめ丸慰霊碑除幕式」後は、平成15年に3回忌、平成19年に7回忌、平成23年に10周年、平成25年に13回忌、平成29年に17回忌、そしてコロナ禍の令和3年に20周年が規模縮小で実施されている。そして今回、えひめ丸事故から23年が経過し、事故対応を契機とした日本国愛媛県とアメリカ合衆国ハワイ州との姉妹提携20周年を迎え、同日にハワイで姉妹提携再締結宣言と記念式典を執り行うにあたり、改めて亡くなられた方の霊を慰める為、コロナ禍でも丁寧に管理された慰霊碑前にて執り行われた、えひめ丸慰霊碑管理協会主催の「えひめ丸事故慰霊式」に参列した。

日本からは、遺族代表の水口夫妻を始め、中村知事、高山県議会議長を始め県議会議員12名、田所県教育長、宇和島市長代理の金瀬市教育長、川野宇和島水産高校校長ら31名が参列し、米国からはハワイ州知事代理のルーク副知事、ブランジヤルディホノルル市長、兒玉在ホノルル日本国総領事、米国太平洋艦隊代表、カネコえひめ丸慰霊碑管理協会理事長、ハワイ愛媛県人会他、総勢100名が一堂に集い、事故が発生したハワイ時間9日13時43分（日本時間10日8時43分）に合わせた黙祷や祈祷、ハワイ愛媛県人会による千羽鶴献納、そして遺族と参列者による献花を行い、故人を偲ぶとともに、二度とこのような事故をおこさせない事、未来に向けてハワイと愛媛のさらなる友好交流を進める事を誓った。

管理協会佐伯理事司会の下、中村知事からは「過去をしっかりと受け止め、未来志向の交流を深めていきたい」と述べられ、ハワイ州副知事からは「悲しみを決して忘れず、より良い未来の為に強い友好関係を作りたい」との挨拶があった。また、犠牲者で唯一、遺体が見つかっていない実習生の父親である水口氏が、「息子が生きていたら40歳。どんな姿になっていたか」と寂しさを滲ませる一方、コロナ禍を乗り越え4年ぶりに再会した、事故当時から支えてくれた関係者への感謝の意も述べられ、愛媛とハワイの友好交流だけでなく、事故関係者も未来へ進んでいると感じた。式直後には突然のスコールに見舞われ、別れを惜しむ涙雨だと感じられた。

また同時刻、宇和島市の宇和島水産高校の慰霊碑前でも追想式典が開かれ、在校生ら250人が出席し、代読された校長挨拶では「無念さを思うと悲しみが込み上げ

る。事故を心に刻み忘れることなく、自分自身や家族、友人を大切にしてほしい」と呼び掛けられ、犠牲者の冥福や海の安全を祈った。

忘れる事の出来ない痛ましい事故から 23 年の歳月が流れ、同郷の御霊に心から御冥福を祈ると共に、御遺族、関係者の皆様に心からお見舞い申し上げたい。この悲しみを乗り越える為にも、世界中の海の平和と安全を心から願い、愛媛県議会議員として、ハワイ州並びにホノルル市との友好交流を、これまで以上に促進して参る事を誓いたい。



(5) 愛媛県ハワイ州姉妹提携 20 周年式典

[2/9 (金)]

【文責：石川 稔】

私たちは 2024 年 2 月 8 日から 12 日までの間、えひめ丸事故慰霊式、ジョシュ・グリーンハワイ州知事への表敬訪問と新たな姉妹提携宣言の締結、知事公邸での愛媛県とハワイ州の姉妹提携 20 周年記念式典、兒玉在ホノルル日本国総領事への表敬訪問、ハワイ愛媛県人会、ホノルル日本人商工会議所などとの意見交換、ハワイ・フードバンクの視察など、短期間の日程でかなりハードなスケジュールをこなし、愛媛県議会からの派遣団として短い間にも精力的に公式行事をこなしてきた。今回の訪問の中でも特に重要な公式行事として「愛媛県ハワイ州姉妹締結 20 周年記念式典」があった。

さて、愛媛県とハワイ州との関係では、県立宇和島水産高校の実習船えひめ丸の事故を無くして語れません。振り返ると日本時間の 2001 年 2 月 10 日、午前 8 時 43 分、オアフ島の南 18 km の沖合で、えひめ丸は、アメリカ海軍の原子力潜水艦グリーンビルとの衝突で、乗船していた 35 人のうち、実習生 4 人、指導教官 2 人、乗組員 3 人の計 9 人が尊い命を落とした。

当時は日本とアメリカの習慣、宗教観の違いから船体、遺体の引き揚げは難航したが、事故から 8 カ月余が過ぎた 2001 年 10 月 15 日に約 600 メートルの深海から船体を引き揚げて遺体を収容し、11 月 26 日に改めて約 1,800 メートルの深海に沈めた。

事故から 1 年経った 2002 年 2 月 10 日にはカカアコ・ウォーターフロント公園内に約 900 キロもあるえひめ丸の錨と 9 環の鎖を永久の形見として設えた慰

霊碑が建立され、それから22年を経た今もハワイ愛媛県人会や他県の県人会、地元の学生などのボランティアによって非常に美しく行き届いた状態で清掃、管理されている。

このえひめ丸の不幸な出来事を契機に2003年11月に加戸前知事と当時のリンダ・リングル・ハワイ州知事が「日本国愛媛県とアメリカ合衆国ハワイ州との姉妹提携宣言」に調印し、2013年の11月には中村知事とニール・アバクロンビーハワイ州知事が再調印し、今回改めてジョシュ・グリーンハワイ州知事との間で再々調印した。

いずれにせよ、本県とハワイ州との姉妹提携は、移民を背景とした他の自治体とは異なり、えひめ丸事故を風化させず、未来志向の友好関係を築こうとの想いを基礎に締結したもので、これまで県内高校生のハワイ派遣やハワイ大学からのインターンシップ受け入れなど、100名に上る若者交流の支援やサイクリング大会の相互参加の他、現地量販店での「愛媛フェア」開催など、幅広い分野での交流により、関係強化に努めてきた。

今回の新宣言では、スポーツを新たな交流分野に追加し、これまで民間が中心で取り組んできたスポーツ交流の拡充について検討するほか、2024年当初予算案には経済分野における新たな取り組みとして現地で活躍する女性ビジネスリーダーを招いた県内若手起業家や高校生との交流事業を実施するための必要経費を計上した。

記念式典では、歴代のハワイ州知事3名にもご臨席をいただき、今後、県は州政府や県人会等との連携を行い、情報発信の強化により、現地経済団体との関係構築を模索するなど、両地域の交流と絆をさらに深めていく旨の考え方を示した。

今回の姉妹提携記念式典では、この20年間に慰霊碑の清掃・管理、そして愛媛県との友好・親善、愛媛県人会の活動に尽力されてこられた県人会の会長さんらに対して、県特別功労賞、えひめ丸慰霊碑清掃団体感謝状、ハワイ愛媛県人会特別感謝状などが贈呈された。

この記念式典には現役の第9代のジョシュ・グリーンハワイ州知事はもとより、第3代のジョージ・アリヨシ、第7代のニール・アバクロンビー、第8代のデービッド・イゲハワイ州知事、更に多くのハワイ州議会の上院、下院の議員、日米ハワイ協会、ハワイ愛媛県人会、えひめ丸慰霊碑ボランティア清掃団体など約140人が参加するなどハワイ州の愛媛県に対する気遣いを感じさせる記念式典となった。

<愛媛県特別功労賞>

えひめ丸慰霊碑の維持管理やえひめ丸事故慰霊式の運営等への貢献に対して、本県の特別な感謝の意を表すための愛媛県特別功労賞には、えひめ丸慰霊碑管理協会理事長やハワイ日米協会会長を歴任されたレニー・ヤジマさん、同じくブレア・オドさん、そして現在の同理事長、協会長のレイナ・カネコさんに贈呈した。

<えひめ丸慰霊碑清掃団体への感謝状>

また、えひめ丸慰霊碑清掃団体への感謝状は、長年にわたりボランティアでえひめ丸慰霊碑で清掃をしている団体に対して本県としての感謝の意を表すためにハワイ広島系図体研究会、ハワイ福岡県人会など21の団体に贈呈した。

<特別感謝状>

そして、本県とハワイ州との交流促進に尽力された方々に対し、本県として特別な感謝の意を表すため、特別感謝状を贈呈した3人の内の一人はハワイ愛媛県人会会長の松リチャードさんで、ハワイ愛媛県人会会長として10年間にわたり県人会活動の活性化に努め、本県とハワイ州の活性化に貢献された。また、元マルカイコーポレーション主席副社長として、愛媛フェア開催に際し大変にお世話になった方である。

二人目の佐伯ケネス隆男さんは、本県とハワイ州との協定の締結に尽力頂き、ハワイ愛媛県人会顧問として会長を補佐され、本県とハワイ州との交流促進に貢献された方で、ハワイ日系人連合協会元会長であり、元海軍大佐とのことである。

三人目の薩摩ゲイさんは県の事業であるハワイ大学・サマーインターン生の受け入れにおいて、開始直後から派遣者を選考し、本県との交流促進に尽力された方で、前ハワイ大学日本研究センターの副所長を歴任された方である。

このように20周年記念式典は厳かな中にも他県とは違う未来志向の友好・親善を図るべく多くの方々の交流があったことをお伝えし、報告に代えたいと思う。



(6) ホノルル日本人商工会議所

[2/10 (土)]

【文責：石川 剛】

ホノルル商工会議所は、明治元年以降、日本より多数の移民がハワイに移り住み、現地で経済活動を行うようになり、それらの人々が相互互助を図ることを目的として存在している。ハワイとホノルルでの日本人・日系人・アメリカ人との交流の活性化や、伝統の継承を図って経済を発展させる役割を持っている。同商工会議所のホームページでその歴史を紐解くと、100年前、ハワイにペストが流行し対策として街を焼き払った際、焼きだされた多くの日系移民が路頭に迷い、その苦しむ日系人の生活再建を図るために立ち上げられた「ホノルル日本人商人同志会」がもとになっているということを知った。今回の視察は、コロナ禍を超えて、再び日系人が協力してハワイの地で生きていくための結びつきの中心である同商工会議所を訪れることであるから、直近のマウイ島の大火事災害もあり、不思議な機縁を感じた。

真冬とは言え気温は摂氏25度ほどあり、快晴で湿度の少ない気候の中、視察団一行はバスで同商工会議所事務所に向かった。ホノルルは目を見張るべきモーターゼーションの街であり、街の中の道路も広いが、街の中心部を出ると片側4車線のハイウェイが島を覆いつくしているのではないかとこのほど様々な方向に延びており、その上を走行する自動車の数もおびただしいものであった。同商工会議所事務所は、街の中心部からハイウェイを30分程度走行した郊外に位置するビルの二階にあった。建物の入り口には、同商工会議所のスタッフの方々が出迎えにきてくれており、視察団全員がバスから降りる頃には、今回の同商工会議所訪問の仲介の役を担っていただいたアラモアナ・ライオンズクラブの方や同商工会議所のCEO スティーブン・J・テルヤ氏もお見えになり出迎えてくれた。日差しの中での簡単な挨拶のあと、冷房の効いた二階事務所に案内され、改めて、CEO スティーブン・J・テルヤ氏から丁寧なご挨拶をいただいた。当初、何かの手違いで通訳がないということで、これからの視察はどうするのかなという心配が一瞬漂ったが、運よく日本人会の方が一名同席してくれていたおかげで、その方が急遽通訳を務めてくれることとなり、事なきを得た。また、すぐに日本語の堪能なスタッフの方が来てくださったので、全く問題なく視察を行うことができた。

初めのCEOのごあいさつでは、自身が銀行員であったことや“調べ魔”であることなど、ユーモアを交えた自己紹介がなされ、少し緊張感のあった場を和ませていただいた。その後、日本語の堪能なスタッフの方が来てくれたことにより、同商工会議所の活動内容の説明もわかりやすく行っていただき、続く質疑応答も、和気あいあいとした和やかな雰囲気の中に終始することができた。

質疑応答においては、コロナ後の活動の変化や、新しい人材に加入してもらうための工夫等について質問し、それらに対しては、伝統的にやってきた食を中心とし

たイベントが成功したので、さらに拡大していきたいということであったし、ハワイにおいても新しいメンバーの募集に苦勞しているため、SNSを利用して募集告知を行って成功していること、また、新たなメンバーに加入してもらう過程において、経済活動のみならず、メンター制度というメンバーとメンバーを結び付け、伝統的な習慣や風習を伝達するというにも役立つことが改めて認識された等のご回答を得ることができた。洋の東西を問わず、コミュニティが抱える問題というのは似通っているなというのを再確認した次第である。また、前日、ハワイの現地クラフトビールの進出地を日本で探していたという話を聞いていたこともあり、クラフトビールの生産について、愛媛にも西条市という水のおいしい地域があり、是非クラフトビール工場の進出を考えて欲しいという提案をされる方もいたが、同商工会議所でも前向きに考えてみたいというご回答をいただいた。

また、これは旅行会社等に働きかけなければならないが、いつの時期かは伺わなかったが、CEOが愛媛に旅行に行こうとした際、旅行会社を通じて得られる愛媛の情報が極端に少なく、道後温泉と今治タオル美術館しか観光情報がなかったとのことである。もっと情報を得たいと思っていたのに、結局は、日本に渡ってからいろいろリサーチしたとのことであるが、素晴らしい観光スポットがたくさんあるのに、アピール力が弱いのは非常にもったいないということをご指摘いただいたことは忘れてはならないであろう。

一時間足らずの短い滞在ではあったが、日系移民の皆様がハワイで困苦を乗り越えて活躍されている現状を知ると同時に、ハワイに生きる方々のアロハとマハロの精神を感じられた、非常に意義ある視察であった。



(6) ハワイ・フードバンク視察

[2/10 (土)]

【文責：永易 英寿】

ホノルル日本人商工会議所の後、ハワイ・フードバンクを訪問した。ハワイ・フードバンクは、休日にもかかわらず丁寧に視察を受け入れてくれた。

先に訪れたホノルル日本人商工会議所同様、こちらのフードバンクでも、善意でトリロ才智子さんが通訳を快く引き受けてくれた。ハワイ・フードバンクでは、活動概要の説明、フードバンク内の保管の様子、作業内容を聞きながら視察を行った。

まず、フードバンク理事会会長・柴田定一さんの歓迎の挨拶から始まり、愛媛県議会訪問団団長の渡部浩県議より、視察受け入れのお礼の挨拶を行った。そして、今回ハワイ・フードバンクの視察受け入れ調整をしてくださったロン牛島さんの紹介と挨拶があった。

その後、MARIELL TERBIO さんから、ハワイの食品とフードバンクの役割について、パワーポイントを用いて、説明していただいた。

ハワイは、経常的に物価高が続き、家賃や電気代、交通費なども高く、アメリカ合衆国内で最も生活費が高く、食料不足が重大な問題となっている。多くの家族が飢えに陥る危険にさらされている。

約22万人の食料が足りていない状況で、その割合は住民の6人に1人にあたる。その内の4人に1人、約7万人が子どもであり、生活困窮と日々の食料に不安を抱える人が多くいる。

そうした深刻な背景の中、ハワイ・フードバンクは、ハワイの人たちに十分な食料がある状態をつくることを目指して活動されている。明日の飢餓をなくすために努力しながら、今日私たちの「オハナ」（相手に対し家族のような気遣いや献身の気持ち）を養うことを使命とされている。

設立は1983年で、創立40周年を迎えた団体であり、ハワイ州では1番大きなフードバンクの団体である。

倉庫は、オアフ島とカウアイ島の2カ所を運営している。どちらの倉庫もAIBの検査を受け、食品の安全性が認定されている。

その倉庫では、さまざまな食品を受け取り、検査、仕分け、保管、流通のサイクルで運営を行っている。食品は、スーパーや企業のフードバンク、食品製造業者や生産者、食品購入業者、食品小売業者や卸売業者、フィーディングアメリカ、個人及び企業のフードドライブなどから幅広く食品を受け取っており、オアフ島とカウアイ島の200以上の食品パートナー代理店と提携して運営している。食品パートナー代理店は、ハワイ・フードバンクの中で最も重要な流通手段であり、地域社会のニーズに応じて、様々な方法で食品を提供している。その方法とは、フードパントリー、ホームレスシェルター、炊き出し、家庭内虐待シェルター、リハビリテーションセンターなどである。

オアフ島とカウアイ島で、毎月12万7千人ほどに食料を支給している。ハワイ・フードバンクでは、配布する全食品の25%はジャンクフードでない栄養の高いものを配るよう意識している。

食料を配布する為に、コミュニティ、教会、学校等と緊密に連携も行っている。

また、ハワイ・フードバンクでは、さまざまなプログラムを実施しながら食品を

届けている。

「オハナプロデュースプラス」では、20年以上にわたり、お腹を空かせたケイキ（子供）、クプナ（女性）、家族、個人に新鮮な果物や野菜、その他の補助食品を無償で提供している。このプログラムの対象者には、低所得の家族、障がいのある人、家のない人などが含まれている。多くの人にとって、「オハナプロデュースプラス」は新鮮な果物や野菜の唯一の供給源になっている。

「フード4ケイキ スクールパントリープログラム」は、ケイキの健康と福祉を改善するために栄養価の高い食品を提供することを目的としている。

このようなプログラムでは、若い学生、その兄弟、およびその家族にとって、重要な食料源として機能している。スクールパントリーでは、若い生徒向けの放課後の軽食や、持ち帰るための家族用の食料袋の提供も行われている。食料袋にはプロテイン缶、缶詰、乾物、スナックなどが豊富に詰め込まれている。

「飢餓は私たちケイキの食べ物だけを奪うものではありません。それは単純な事実です。子供たちが明るい明日を得るチャンスは、今日食べるのに十分な食べ物を得ることから始まります。」という言葉に深い感銘を受けた。

愛媛県では、令和3年3月に愛媛県食品ロス削減推進計画に基づき、家庭系食品ロス削減とフードバンク活動の活性化を目的に、家庭等で発生した余剰食品を持ち寄り、フードバンク活動団体が子ども食堂や福祉施設等に寄付するフードドライブの拡大に取り組んでいる。

「衣食足りて礼節を知る」という言葉がある。政治の要は、住民のゆとりある生活の実現にある、という例えである。この視察を契機に、今後もさらに食品ロス削減、困窮者支援の機運を高めてまいりたい。



6 終わりに

今回の海外視察は、県議会と理事者が一体となりハワイ州知事への表敬訪問と同時に、愛媛県とハワイ州との姉妹提携宣言再締結式、ワシントンプレイスにおいての姉妹提携 20 周年記念式典、カカアコウォーターフロント公園でのえひめ丸事故慰霊式に参加し、現地の方々との交流を通じて、今日までに築かれた愛媛県とハワイ州との絆をさらに深化し、友好・平等・互恵のもとに、両県州の繁栄を促進するとともに、経済、教育、社会、文化、スポーツなどの分野で、様々な形での交流と協力を発展させ、永続させるという大変意義のあるものとなった。

また、3泊5日という過密なスケジュールであったが、参加団員が事前検討の中で協議を行い、公式行事だけではなく、ハワイ州の社会・経済の現状調査のため、在ホノルル日本国総領事館、ホノルル日本人商工会議所並びに、ハワイ・フードバンクの視察を行った。視察日が現地時刻では土曜日であり、両視察先は休日でありましたが、団員である明比県議が所属する「西条ライオンズクラブ」とハワイの「アラモアナライオンズクラブ」が姉妹提携している関係で、アラモアナライオンズクラブの方々のご尽力により視察が可能となった。明比県議及び、ホノルル日本人商工会議所のスティーブン・J・テルヤ CEO、ハワイ・フードバンクの紫田定一理事会会長他関係者に心から感謝を申し上げる。

「百聞は一見に如かず」とは漢書の一説であります。現地で実物を見たり、又直接手がけている人々の生の声を聞くと、今までの知識や概念の不十分さを実感できることを再認識した。

最後に、事故もなく無事視察し終えたことを嬉しく思う。また、今回の視察に当たってご協力いただいた関係者の方々に心から感謝をすると共に、その成果というものを、今後の議会活動、県政推進のうえでしっかりと活かしていきたいと考える。

愛媛県議会海外派遣（ハワイ）議員団長 渡部 浩